

Oracle 10gR2 データベースの作成 DBCA

[Oracle Database10g]

DBCA によるデータベースの作成

ようこそ



データベースの作成



テンプレートの選択



詳細表示で、各テンプレートの設定が確認できる



初期化パラメータの設定値例

初期化パラメータ	データウェアハウス	トランザクション処理	汎用
db_block_size	8KB	8KB	8KB

db_file_multiblock_read_count	12	8	16
pga_aggregate_target	32MB	16MB	24MB

データベース識別情報



Oracleデータベースは、一般的に"name.domain"という形式のグローバル・データベース名で一意に識別されます。

グローバル・データベース名:

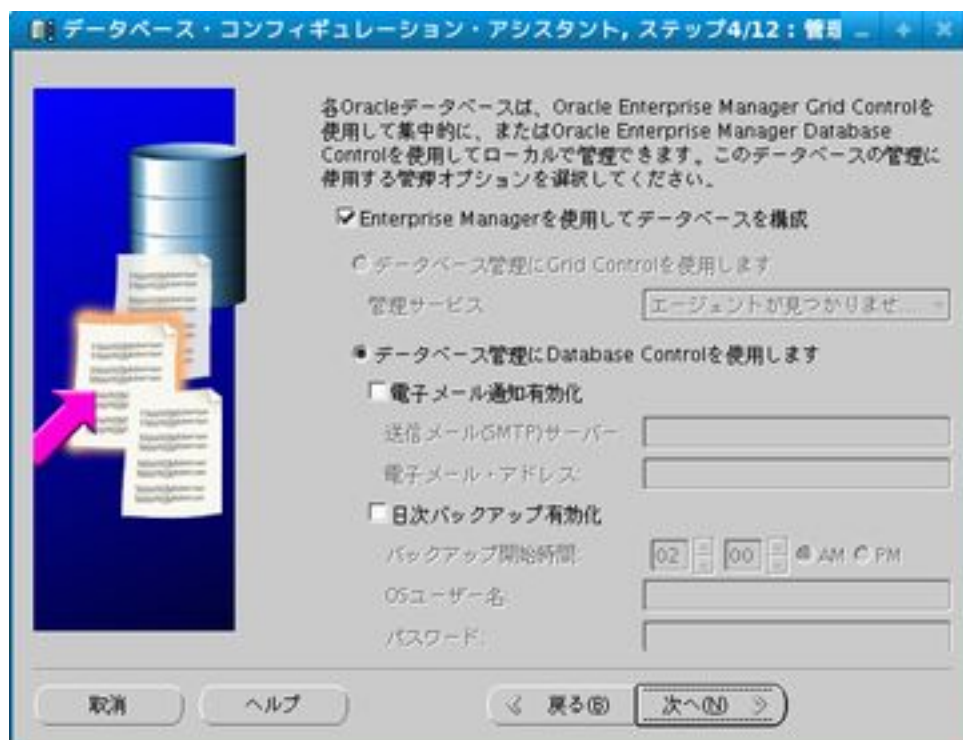
データベースは1つ以上のOracleインスタンスによって参照されており、インスタンスはOracleシステム識別子(SID)によって、このコンピュータ上の他のインスタンスから一意に識別されています。

SID:

取消 ヘルプ < 戻る(B) 次へ(N) >

- ・グローバルデータベース名と SID を入力
- ・デフォルトで SID はデータベース名と同一となる

管理オプション



各Oracleデータベースは、Oracle Enterprise Manager Grid Controlを使用して集中的に、またはOracle Enterprise Manager Database Controlを使用してローカルで管理できます。このデータベースの管理に使用する管理オプションを選択してください。

☒ Enterprise Managerを使用してデータベースを構成

☐ データベース管理にGrid Controlを使用します

管理サービス

☒ データベース管理にDatabase Controlを使用します

☐ 電子メール通知有効化

送信メール(SMTP)サーバー

電子メール・アドレス

☐ 日次バックアップ有効化

バックアップ開始時刻 AM/PM

OSユーザー名

パスワード

取消 ヘルプ < 戻る(B) 次へ(N) >

- ・ Enterprise Manager を使用して管理するかどうかを選択

データベース資格証明

データベース・コンフィギュレーション・アシスタント, ステップ5/12: データベース資格証明

セキュリティの理由により、新規データベースの次のユーザー・アカウントのパスワードを指定する必要があります。

☒ すべてのアカウントに対して同じパスワードを使用

パスワード:

パスワードの確認:

☐ 別のパスワードを使用

ユーザー名	パスワード	パスワードの確認
SYS		
SYSTEM		
DBSNMP		
SYSMAN		

取消 ヘルプ < 戻る(B) 次へ(F) >

- ・ パスワードの設定を行う

記憶域オプション

データベース・コンフィギュレーション・アシスタント, ステップ6/12: 記憶域オプション

データベースに使用する記憶域メカニズムを選択してください。

☒ ファイルシステム
データベース記憶域にファイルシステムを使用します。

☐ 自動ストレージ管理(ASM)
自動ストレージ管理により、データベース記憶域の管理が簡素化され、データベース・レイアウトが最適化されてI/Oパフォーマンスが向上します。このオプションを使用するには、ディスク・セットを指定してASMディスク・グループを作成するか、既存のASMディスク・グループを指定します。

☐ RAWデバイス
自動ストレージ管理を使用しておらず、クラスター・ファイルシステムが使用可能ではない場合は、Real Application Clusters (RAC) データベースに必要な共有記憶域を、RAWパーティションまたはボリュームで指定できます。データベースに作成予定のデータファイル、制御ファイルおよびログ・ファイルごとにRAWデバイスを1つずつ作成しておく必要があります。

☐ RAWデバイス・マッピング・ファイルの指定

取消 ヘルプ < 戻る(B) 次へ(F) > 完了(F)

データベースファイルの位置



リカバリ構成



・アーカイブの有効化をチェックすると、ARCHIVELOG モードになる
データベースコンテンツ



サンプルスキーマ

・チェックすると、以下のサンプルスキーマが作成される

サンプルスキーマ	スキーマ名	内容
人事管理	HR	基本的なリレーショナル・データベース・スキーマ
受注	OE	HR リレーショナル・スキーマに基づいており、オブジェクト・リレーショナル機能およびオブジェクト指向機能を持つ
製品メディア	PM	は interMedia および LOB 列型が含まれる
販売履歴	SH	リレーショナル・スター・スキーマの例。ファクト表と、ディメンション表で構成
キュー待機出荷	QS	実際にメッセージ・キューが含まれている複数のスキーマ

初期化パラメータ

サイズ指定

メモリー **サイズ指定** キャラクタ・セット 接続モード

ブロックは、割当てとI/Oで使用する記憶域の最小単位です。一度データベースが作成されると、変更できません。

ブロック・サイズ: バイト

このデータベースに同時に接続可能なオペレーティング・システム・ユーザー・プロセスの最大数を指定してください。このパラメータの値は6以上にする必要があります(バックグラウンド・プロセス用に5と各ユーザー・プロセス用に1)。

プロセス数:

- ・標準のブロックサイズを指定。
- ・テンプレートを選択した場合、変更できない。

キャラクタ・セット

メモリー サイズ指定 **キャラクタ・セット** 接続モード

データベース・キャラクタ・セット

☐ デフォルトを使用
このデータベースのデフォルトのキャラクタ・セットは、このオペレーティング・システムの言語設定に基づいています。: JA16EUC

☒ Unicode(AL32UTF8)を使用
キャラクタ・セットをUnicode(AL32UTF8)に設定すると、複数の言語グループを格納できます。

☐ 次のキャラクタ・セットから選択
データベース・キャラクタ・セット:

各国語キャラクタ・セット:

デフォルト言語:

デフォルトの日付書式:

- ・デフォルトのキャラクタ・セットと各国語キャラクタセットを設定できる

データベース・キャラクタ・セット

- ・文字データ型（CHAR、VARCHAR2、CLOB および LONG）で格納されたデータ
- ・表名、列名、PL/SQL 変数などの識別
- ・SQL および PL/SQL プログラム・ソースの入力と格納

選択できるキャラクタ・セット

キャラクタ・セット	内容
デフォルト	現在使用されている言語のみをサポートする必要がある場合
Unicode(AL32UTF8)	て複数の言語をサポートする必要がある場合
次のキャラクタ・セットから選択	オペレーティング・システムで使用しているデフォルトのキャラクタ・セット以外を <u>Oracle Database</u> のキャラクタ・セットとして使用する 場合

各国語キャラクタ・セット

- ・Unicode データベース・キャラクタ・セットがないデータベースに、Unicode 文字を格納可能にする代替キャラクタ・セット
- ・使用する理由
 - ・それぞれ異なる文字コード体系のプロパティが、広範囲な文字処理操作に適しているため
 - ・各国語キャラクタ・セットでのプログラミングが相対的に簡単のため
- ・各国語キャラクタ・セットの選択は、データベース・キャラクタ・セットには影響を与えない
- ・NCHAR、NVARCAR2、NCLOB データ型に使用する文字セット

接続モード

メモリー サイズ設定 キャラクタ・セット 接続モード

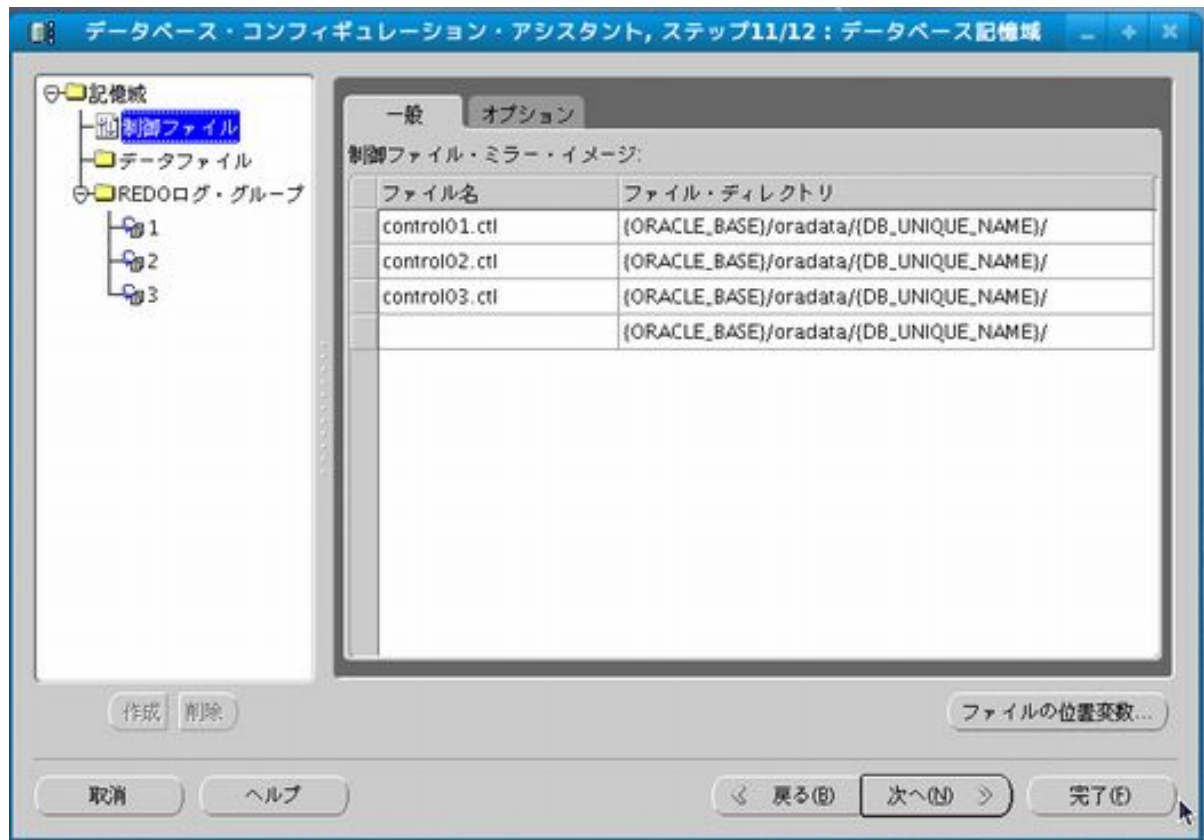
デフォルトのデータベース稼働モードを選択してください:

☒ 専用サーバー・モード
各クライアント接続に対して、データベースはそのクライアントのみを処理する専用のリソースを割り当てます。クライアント接続の合計数が少ない場合、またはクライアントがデータベースに対して長時間に及ぶ要求を行う場合に、このモードを使用します。

☐ 共有サーバー・モード
いくつかのクライアント接続で、リソースのデータベース割当てプールを共有しています。システム・リソースを効果的に利用し、かつ多くのユーザーがデータベースに同時接続する必要がある場合には、このモードを使用します。Oracle共有サーバー機能が有効化されます。
共有サーバーでは、インスタンスの起動時に作成するサーバー・プロセスの数を指定します。
共有サーバー:

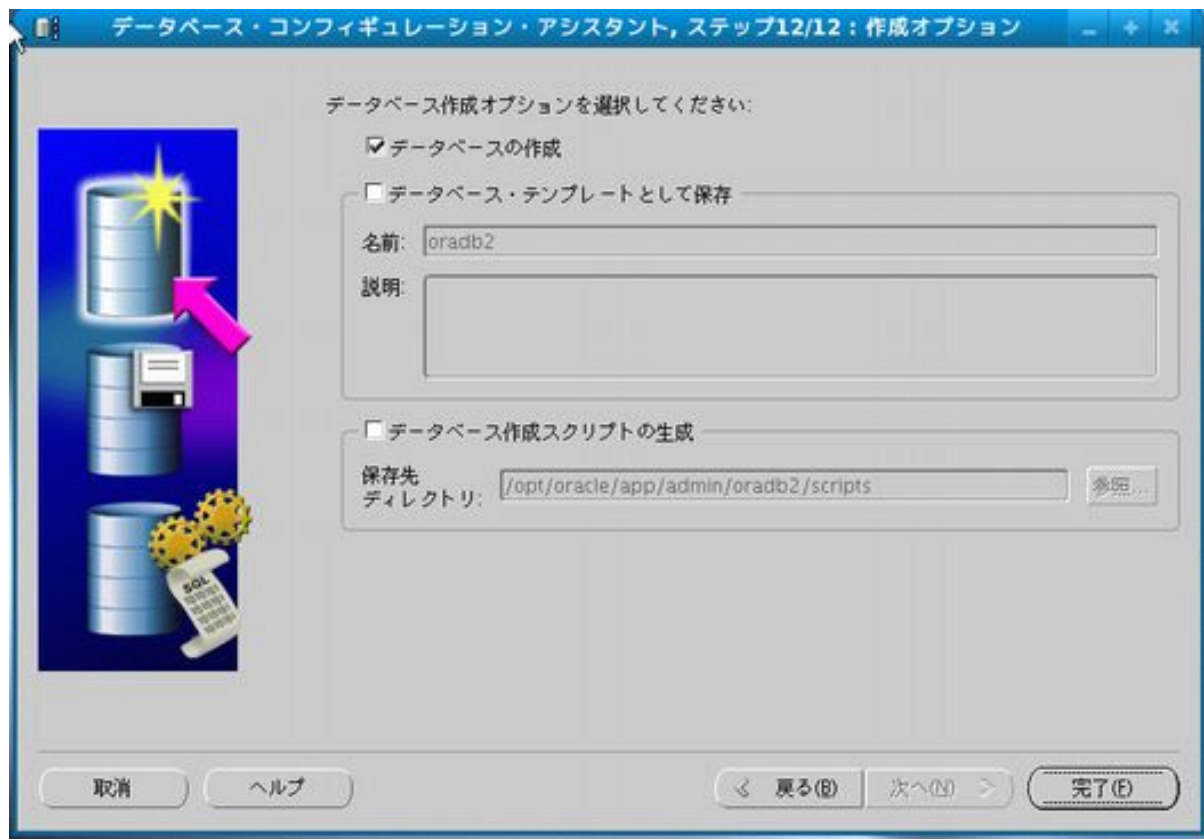
- ・専用サーバー、共有サーバーの設定

データベース記憶域



- ・データベース作成用の記憶域パラメータを指定できる

作成オプション



- ・ここまでの作業をテンプレートとして保存できる
- 確認



データベース作成中



完了

